

区分・種別	史跡		
名称	えいのうさんじょうあと 永納山城跡		
所在地	西条市河原津乙4番1外112筆・今治市孫兵衛作		
所有者	西条市 外	管理団体	
指定年月日	平成17年7月14日		
解説	<p>愛媛県中部、高縄半島^{たかなわはんとう}の東付け根に所在する古代山城跡。北方の来島海峡は、古くから瀬戸内海の交通、軍事等の要衝となっている。永納山城跡は、永納山とその北西部に位置する医王山^{いおうさん}の2つの独立した山塊上に立地する。両山ともに尾根筋から尾根斜面にかけて岩盤の露出が顕著であり、垂直に切り立った露岩により絶壁となる場所もみられる。永納山城跡の外郭線^{がいかくせん}は、尾根の傾斜に沿うように東西約470m、南北約720mの範囲で巡らしており、全長は約2.5kmを測る。絶壁状に切り立つ岩盤を巧みに利用したもので、小ぶりの列石^{れっせき}を一段置いた上に土塁を構築することを基本とする。他に、水門や城門があった可能性が指摘されている。</p> <p>永納山城跡はその構造と他の類例から7世紀後半頃に築造された古代山城と考えられ、対外関係が緊張した時代に瀬戸内海防衛の一翼を担い、畿内地方への侵攻を食い止める目的で築造された可能性が高い。7世紀の対外関係を示す遺跡として重要である。</p>		

